

# 安全データシート (SDS)

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称(製品名) : デンチャーソフトII (液)  
会社名 : 亀水化学工業株式会社  
住 所 : 大阪府寝屋川市豊里町 17-1  
担当者 : 品質保証室  
電話番号 : 072-826-7720  
FAX 番号 : 072-826-1299  
緊急連絡先 : 同 上  
改訂日 : 2024 年 1 月 22 日

## 2. 危険有害性の要約

### GHS 分類

物理化学的危険性	引火性液体	:	区分 2
	自然発火性液体	:	区分に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	:	区分に該当しない
	急性毒性(経皮)	:	区分に該当しない
	急性毒性(吸入:蒸気)	:	区分に該当しない
	皮膚腐食性/刺激性	:	区分に該当しない
	眼に対する重篤な損傷/		
	眼刺激性	:	区分 2B
	呼吸器感作性	:	分類できない
	皮膚感作性	:	分類できない
	生殖細胞変異原性	:	分類できない
	発がん性	:	区分 1A
	生殖毒性	:	区分 1A
	特定標的臓器/全身毒性		
	(単回ばく露)	:	区分 3(気道刺激性、麻酔作用)
特定標的臓器/全身毒性			
(反復ばく露)	:	区分 1(肝臓) 区分 2(中枢神経系)	
環境有害性	水生環境有害性(急性)	:	区分に該当しない
	水生環境有害性(慢性)	:	区分に該当しない

\* 記載がないものは分類対象外又は分類できない。

\* 健康・環境に対する有害性データは、原材料(エタノール)のものであり、製品の試験データではない。

### GHS ラベル要素

【絵表示】



【注意喚起】 危険

【危険有害性情報】

- ・引火性の高い液体および蒸気
- ・眼刺激
- ・呼吸器への刺激のおそれ
- ・眠気またはめまいのおそれ
- ・発がんのおそれ
- ・生殖能または胎児への悪影響のおそれ
- ・長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(肝臓)の障害
- ・長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(中枢神経系)の障害

注意書き

【安全対策】

- ・使用前に取扱説明書を入手し、すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・指定された保護手袋、保護眼鏡・保護面、呼吸用保護具、保護衣を着用すること。
- ・熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
- ・容器を密閉しておくこと。
- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・蒸気、ミストを吸入しないこと。
- ・屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・環境への放出を避けること。
- ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。

【対応】

- ・吸入した場合： 気分が悪い時や呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸がしやすい姿勢で休息させ、医師に連絡すること。
- ・皮膚に付着した場合： 直ちに、汚染された衣類をすべて取り除き、皮膚を多量の流水と石鹼で洗うこと。気分が悪い時や皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断・手当てを受けること。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
- ・眼に入った場合： 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを使用している場合は外し、その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断・手当てを受けること。
- ・飲み込んだ場合： 直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
- ・気分が悪い時や、呼吸に関する症状が出た場合には、医師の診断・手当てを受けること。
- ・ばく露又はばく露の懸念がある場合は、医師の診断・手当てを受けること。
- ・漏洩した場合、漏出物を回収すること。
- ・火災の場合には、消火に粉末、炭酸ガス、泡、乾燥砂を使用すること。

【保管】

- ・容器を密閉し、涼しく換気の良い場所で保管すること。

**【廃棄】**

- ・都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。

重要な徴候及び想定される非常事態の概要： 情報なし

**3. 組成及び成分情報**

化学物質・混合物の区別： 混合物

化学名又は一般名	含有量(%)	CAS 番号
ブチルフタリルブチルグリコレート	≤90	85-70-1
エタノール	≤20	64-17-5
その他	非公開	非公開

**4. 応急措置**

- 吸入した場合
  - ・直ちに新鮮な空気がえられる所に移し、身体を毛布等で覆い保温して安静を保つ。呼吸が止まっている場合、及び呼吸が弱い場合は衣類をゆるめ、呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。
  - 速やかに医療処置を受ける。
- 皮膚に付着した場合
  - ・汚染された衣類・靴等を速やかに脱ぎ捨てる。触れた部分を水又は微温湯を流しながら十分な時間をかけて洗浄する。外観に変化がみられたり痛みが続く場合は直ちに医療処置を受ける。
- 眼に入った場合
  - ・清浄な水で数分間洗浄した後、直ちに医師の手当てを受ける。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球・まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるよう洗眼する。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り取り除いて洗浄を続ける。
- 飲み込んだ場合
  - ・吐き出させたりするとかえって危険を増す。直ちに医療処置を受ける。水でよく口の中を洗わせても良いが、意識がない場合は口から何も与えてはならない。
- 応急措置をする者の保護
  - 被災者を救助する場合、適切な保護具を着用し活動する。

**5. 火災時の措置**

- 適切な消火剤
  - ・粉末、炭酸ガス、泡、乾燥砂。
- 使ってはならない消火剤
  - ・棒状の水
- 特有の危険有害性
  - ・火災によって刺激性、有毒なガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法
  - ・火災発生場所の周囲には関係者以外の立入りを禁止する。
  - ・初期の消火には粉末、炭酸ガス、乾燥砂等を用いる。
  - ・大規模火災の際には泡消火剤等を用いて空気を遮断することが有効である。
- 消火活動を行う者の保護
  - ・消火作業の際には必ず保護具を着用する。

**6. 漏出時の措置**

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
  - ・作業の際は必ず保護具を着用し、風上より作業する。風下の人を退避させる。漏出した場所の周囲にはロープを張る等して人の立入りを禁止する。
- 環境に対する注意事項
  - ・下水に流してはならない。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材：
  - ・漏洩液は、おが屑、ウエス、砂等に吸収させて容器に回収する。

二次災害の防止策

・付近の着火源となるものを速やかに取り除き、着火した場合に備えて、消火剤を準備する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

[技術的対策]

・室内で取扱う場合、局所排気設備等で特に換気を充分に行うこと。  
・皮膚からの吸収、皮膚・眼との接触、蒸気の吸入等を避けるため適切な保護具を着用する。  
(8. ばく露防止及び保護措置 保護具の項参照)

[安全取扱注意事項]

・容器を転倒させたり、衝撃を加え又は引きずる等の粗暴な取扱いをしない。

[接触回避]

・高温物、スパーク、火気、強酸化剤等との接触を避ける。

[衛生対策]

・取扱い後は、よく手を洗うこと。  
・この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

保管

[安全な保管条件]

・直射日光を避け密栓して、換気又は風通しのよい冷暗所に保管する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等

・設定されていない。(エタノールとしては以下のとおり)  
・ACGIH(2008年版) STEL 1000ppm

設備対策

・適切な換気のある場所で取り扱う。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備等を設け、その位置を明確に表示すること。

管理濃度

・設定されていない。

保護具

[呼吸器の保護具]: 防毒マスク(有機ガス用)、濃度が高い場合は送気マスク、空気呼吸器。

[手の保護具]: 耐油性保護手袋。

[目の保護具]: 保護眼鏡又は防災面。

[皮膚及び身体の保護具]: 保護長靴、保護衣服。

衛生対策

・取扱い後は、手洗い及びうがいを十分する。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態

液体

色

無色透明

臭い

特異臭

融点/凝固点

エタノール : -114°C

沸点又は初留点及び沸点範囲

エタノール : 78.3°C

可燃性

データなし

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界

エタノール : 3.3 ~ 19 vol%

引火点

エタノール : 11°C(密閉式)

自然発火点

エタノール : 422.7°C

分解温度

データなし

pH

データなし

動粘性率

データなし

溶解度	エタノール：水に易溶、多くの有機溶剤に可溶
n-オクタノール／水分配係数(log 値)	エタノール：log Pow -0.32
蒸気圧	エタノール：5.8 kPa(20℃)
密度及び／又は相対密度	エタノール：0.8／20℃
相対ガス密度	データなし
粒子特性	該当しない

## 10. 安定性及び反応性

反応性	データなし
化学的安定性	通常の取扱い条件においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	エタノール：蒸気は空気とよく混合し、爆発性混合物を生成しやすい。次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニアと徐々に反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
避けるべき条件	日光、熱、火花、裸火、静電気等の発火源。酸化剤との接触。
混触危険物質	酸化剤
危険有害な分解生成物	燃焼生成ガス(一酸化炭素、二酸化炭素)

## 11. 有害性情報

エタノールに関しては、以下のようなデータが報告されている。

急性毒性	経口ラット LD 50 6,200mg/kg
	経皮ウサギ LDLo 20,000 mg/kg
	吸入 ラット LC 50 63,000 ppm(蒸気)
皮膚腐食性／皮膚刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	ウサギを用いた2つの試験において、中程度の刺激性と評価されている。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	生殖細胞 in vivo 変異原性試験(優性致死試験) 陰性
発がん性	ACGIH A3(動物実験で発がん性が認められた物質)
生殖毒性	ヒトでは出生前にエタノールを摂取すると新生児に胎児性アルコール症候群と称される先天性の奇形を生じることが知られている。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトについて「気道刺激性、中毒症状」の報告があることから、標的臓器は「気道、中枢神経系」と考えられる。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトについて、アルコールの長期大量摂取が最も強い影響を与える標的臓器は肝臓であることから、標的臓器は、「肝臓」と考えられる。
誤えん有害性	データなし

## 12. 環境影響情報

エタノールに関しては、以下のようなデータが報告されている。

生態毒性	甲殻類 オオミジンコ EC 50 /48hr 5463 mg/L
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

### 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。  
汚染容器及び包装 容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。

### 14. 輸送上の注意

国連番号 UN1993  
国連分類 クラス 3(その他の引火性液体)  
容器等級 II  
海洋汚染物質 該当しない。  
国際規制 海上規制情報：IMO/IMDG コードの規定に従う。  
航空規制情報：ICAO-TI/IATA-DGR の規定に従う。  
国内規制 陸上規制情報：消防法、道路法の規定に従う。  
海上規制情報：船舶安全法、港則法、海洋汚染防止法の規定に従う。  
航空規制情報：航空法の規定に従う。

### 15. 適用法令

薬機法 管理医療機器(義歯床用短期弾性裏装材)  
歯科医療有資格者以外は使用しないこと。  
労働安全衛生法 名称等表示危険/有害物, 名称通知危険/有害物  
エタノール(政令番号 61)  
危険物・引火性の物：エタノール  
PRTR 法 非該当  
毒物及び劇物取締法 非該当  
消防法 エタノール：第 4 類 引火性液体アルコール類

### 16. その他の情報

その他

\*本製品は、歯科用医療機器、義歯床用短期弾性裏装材です。

\*この SDS は現時点で入手できる資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、危険性、有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分ご注意ください。

\*記載のデータや危険性、有害性の評価等に関して、いかなる保証もなすものではありません。